

みつけた！



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

## 企画展：昔の暮らしの移り変わり(泊湊編)

江戸時代の航海者の虎の巻『日本汐路の記』によると、「七戸泊湊(間の口漁港)は、ヤマセが吹けば船を出せないという、むずかしい湊だった。」そうです。1960年(昭和35年)に入っても、波が高い時は船を出せず、浜で漁師が風待ちをしていました。1965年(昭和40年)泊地区は、強風と高潮によって、流されたり壊れたりした漁船 60 隻、壊れた住宅 51 棟、浸水した家 164 戸、ケガをした人 21 人、約19億円をこえる大被害を受けました。

翌年、泊漁業組合は、青森県に泊の漁港を設備の整った避難港にするようお願いしました。1969年(昭和44年)焼山漁港と泊漁港が避難港(第4種漁港)に指定され、国と県は、焼山漁港の整備を実施。大きな波を防ぐ沖防波堤、岸を守る設備の護岸や岸壁を新しく設け、さまざまな施設が作られ、大型車が通れる焼山大橋も開通しました。このように、組合を中心に長年にわたる努力により、現在のような近代的な漁港が完成していきました。



丸木舟でのアワビ漁と磯漁 1960年代



浜で波がおさまるのを待つ船と漁師(1960年)



1968(昭和43)年の焼山漁港



2009(平成19)年の焼山漁港



泊地区焼山漁港とイカ釣り漁船